

中間支援活動助成（基本事業）

一般社団法人さんびいす

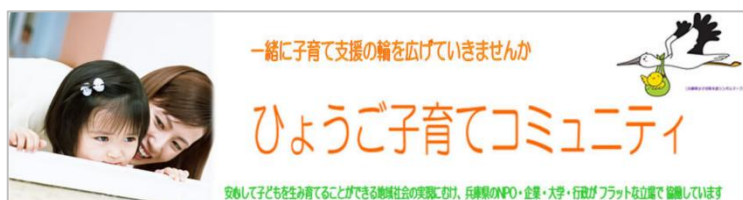
事業名：ネットワークを活かした持続可能な中間支援の実践事業

1. 事業が目指すもの

いまだに、中間支援事業の収益だけで中間支援に携わる専門的かつ高度な知識や経験を持つ人材を継続雇用出来る団体は少ない。そこで一つの団体だけで中間支援を担うのではなく、様々な専門性を持った団体が自分の得意な分野を持ち寄り、ネットワークでの中間支援がおこなえる組織の構築を目指す。

2. 事業の概要

当法人では、これまでも兵庫県内の41市町と県内の子育て支援団体150団体以上で構成されている「ひょうご子育てコミュニティ（以下、HKC）」というネットワークの



事務局を担い、県下全体に対するネットワーク型の中間支援をおこなってきた。この実績をもとに、5年前から淡路市においても地域密着型のネットワーク型中間

支援組織の立ち上げ支援をおこない、昨年度この活動においては一定の成果が得られたので、再び県下全域に対してネットワーク型の中間支援を子育て分野に限らず総合的な支援を県下全域において実施できる体制づくりの検討を開始した。

3. 成果と課題

1) 子育ての次は、子どもの教育、その次は親の介護

支援の入口（窓口）は子育てでも、親世代だけでなくそのまた上の親世代（祖父母世代）との関わりもあり、結果的には「多世代支援」となり、子育てが終わった親に対する社会復帰支援など、様々な支援の実施が出来た。

2) 行政との協働による信頼と広範囲に対する支援の実現

ネットワーク組織の場合、フラットな関係であればあるほど主体が見えずらくなり信頼の構築が難しいという欠点がある。しかし、ネットワークの中に兵庫県や市町といった行政にも加わってもらうことで信頼性が担保され、かつ県下のどの地域に対しても連携が可能となり支援の手を差し伸べることが可能となっている。

4. 今後の展望、成果の活用

県下に対する支援を継続するために、オンラインを活用し、午後のひと時カフェに集まり、お茶を飲みながら互いのお困りごとや愚痴をこぼしたり、最近の話題についてちょっと勉強ができる。そんな気軽に

に参加でき気軽に困りごとを解決する糸口が見つけられる「交流&勉強会」を定期開催（毎月1回開催）する。これにより地域の壁も敷居の高さも気にせず困りごとを気軽に話せる場を県下全域へと広げていきたいと思っている。

※ お茶やお菓子の準備は、各自でお願いします（^^）

